

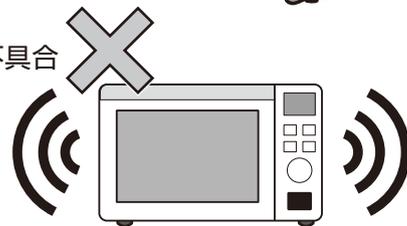


LIXIL FamiLock 電池式 取付け説明書

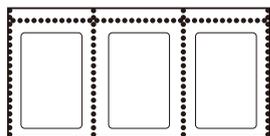
- この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。
- ハンドルの種類や商品によって、室外側リーダーやサムターンなどの形状が絵と異なる場合がありますが、手順・要領は同じです。(S型ハンドルの場合、室外側のリーダーがハンドルに内蔵されています)

■取付け上のお願い

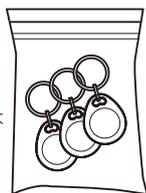
- 次のような場所への玄関ドアの設置は避けてください。故障や正しく作動しない原因になります。
 - ・軒が短く扉を開けた際に扉に直接雨水がかかる場所。
 - ・他の電波式機器から2m以内のところ。
 - ・電子レンジなどの電波的なノイズを出す電化製品から2m以内のところ。
 - ・玄関ドアが電波を通しにくい壁や金属物で囲まれているところ。
 - ・本製品の使用環境温度範囲は -10°C ~ 50°C 、使用周囲湿度範囲は 20% ~ 90% RH です。温度が上昇する場所(直射日光・直接暖房が当たる場所・ボイラーの近くなど)や -10°C よりも温度が低くなる場所があるところ、通気性が悪く湿気の多いところには使用しないでください。また、寒冷地では、風除室を設置してご使用をおすすめします。
- 電動ドライバーは使用しないでください。高トルクのため、部品が破損し不具合につながるおそれがあります。



■梱包内容の確認(部品箱)



カードキー 3 枚(クリアケース入り)

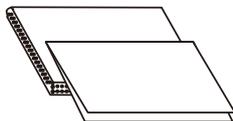
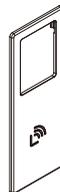


または

タグキー 3 個

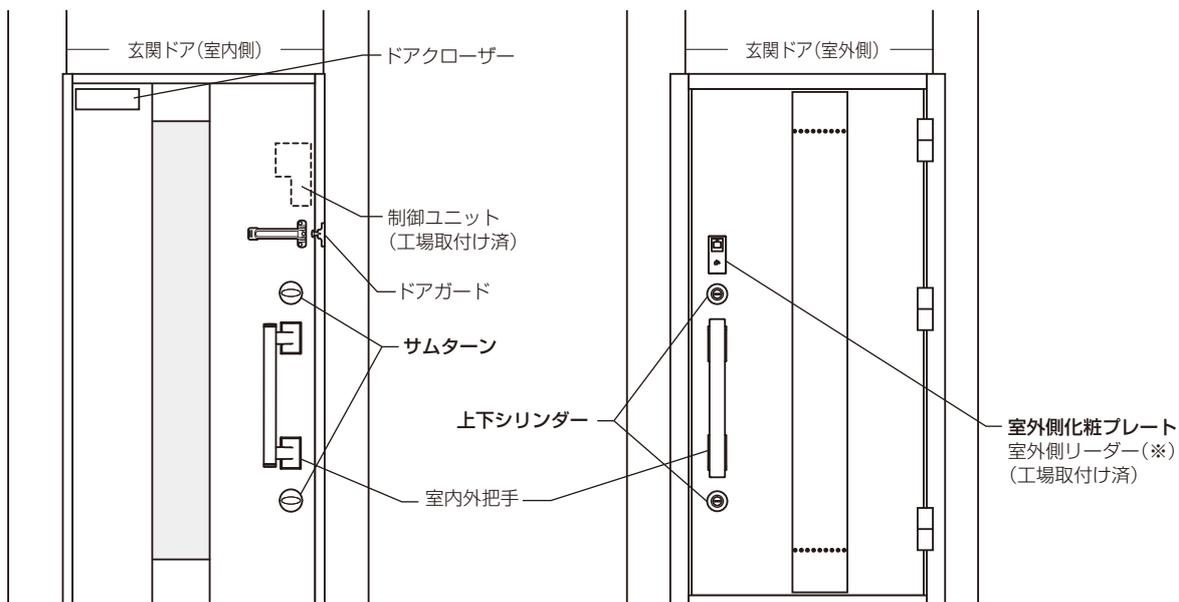
標準キー収納リモコン
(部品箱リモコン入りの場合のみ同梱されております。)

電池 8 本

サムターンセット
(取付ねじ 4 本付)取扱い説明書
かんたん操作ガイド室外側化粧プレート
(S型ハンドルの場合は同梱されていません。)

取付け説明書(本紙)

■取付け部品一覧

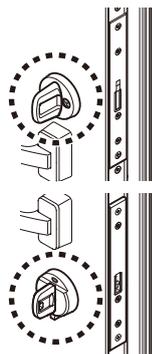


※S型ハンドルの場合、本説明書に記載されている絵と異なる箇所がありますが、手順・要領は同じです。
(室外側リーダーがハンドルに内蔵されています)

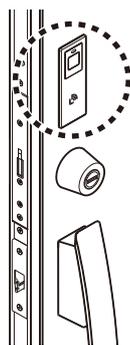
■電気錠取付け手順

●電気錠の取付け手順の一例と本紙に記載している内容を以下にまとめてあります。

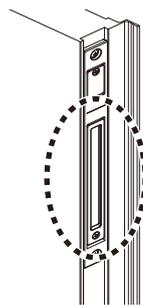
①上部シリンダー、サムターンの取付け
②下部シリンダー、サムターンの取付け



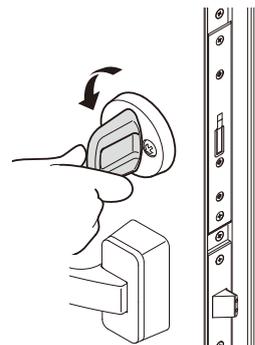
③室外側化粧プレートの取付け*1



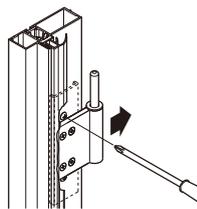
④電池を入れる



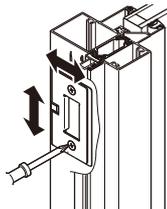
⑤電池を入れた後の動作確認



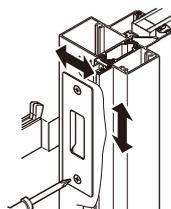
⑥枠とドア本体間のチリ寸法調整



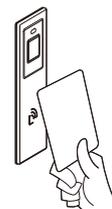
⑦ラッチの調整



⑧ストライクの調整



⑨カードキーを使った動作確認



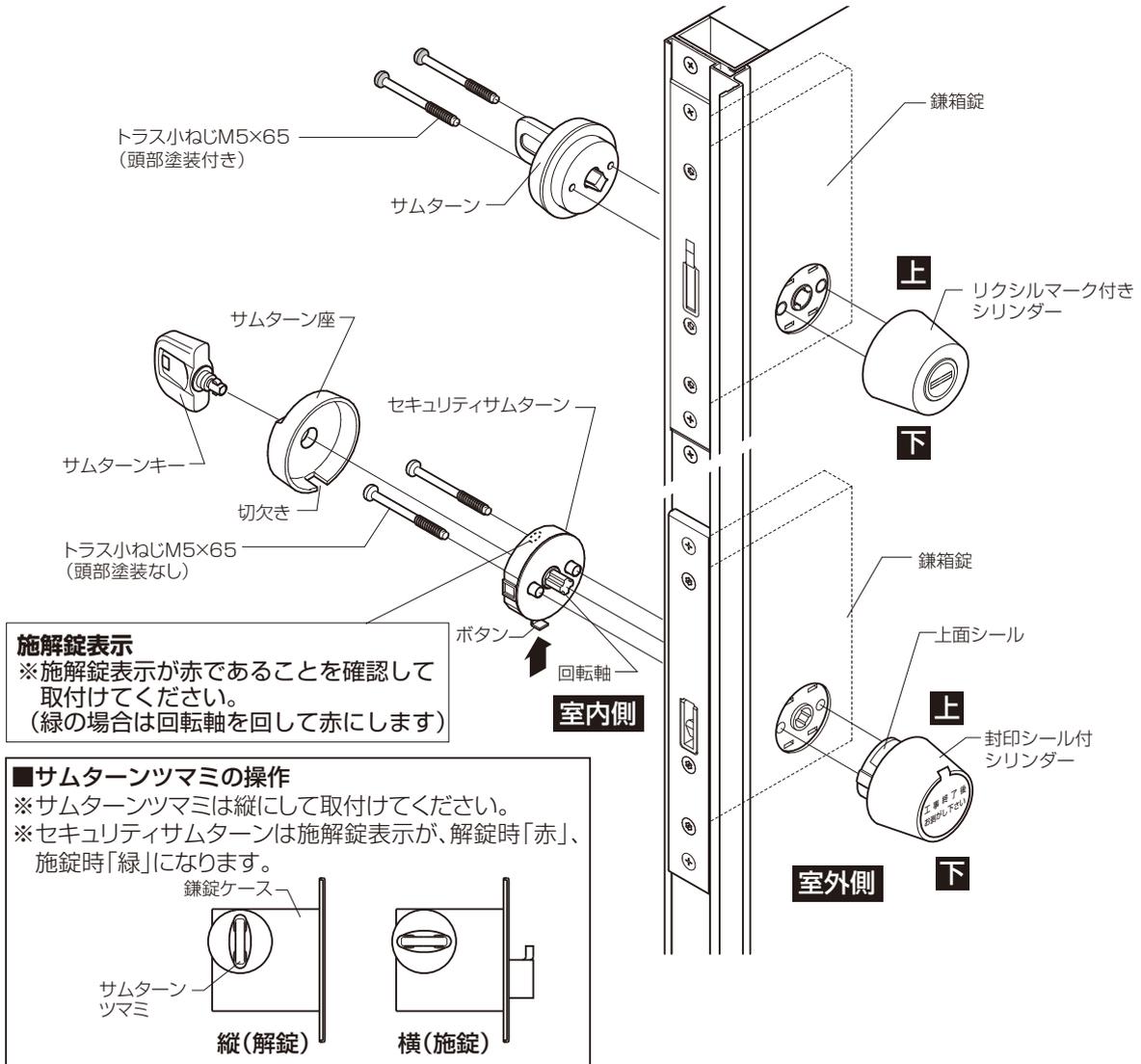
*1) S型ハンドルの場合、室外側化粧プレートを取付ける作業は不要です。

①上部シリンダー、サムターンの取付け

- ① リクシルマーク付きシリンダーのリクシルマークを上に向けます。
- ② リクシルマーク付きシリンダーの出っ張り（4カ所）を、箱錠（上部箱錠）の角穴に合わせて差込みます。
- ③ サムターンをトラス小ねじでリクシルマーク付きシリンダーに取付けます。

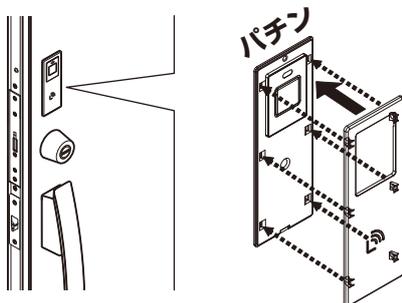
②下部シリンダー、サムターンの取付け

- ① 封印シール付きシリンダーの上面シールを上に向けます。
※上面シールがない場合は、シリンダーカバーの切欠きを下に向けてください。
- ② 封印シール付きシリンダーの出っ張り（4カ所）を鎌箱錠（下部箱錠）の角穴に合わせて差込みます。
- ③ セキュリティサムターンのボタンを下に向け、トラス小ねじで封印シール付きシリンダーに取付けます。
- ④ サムターン座の切欠きを、セキュリティサムターンのボタンの向きに合わせてはめ込みます。
- ⑤ ボタンを上を押しながら、サムターンキーを差込みます。（ボタンが戻るとサムターンキーは抜けなくなります。）



③室外側化粧プレートの取付け

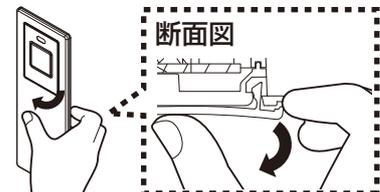
- ① リーダーに室外側化粧プレートを取付けます。（※S型ハンドルの場合、この作業は不要です。）



■メンテナンス時の対応

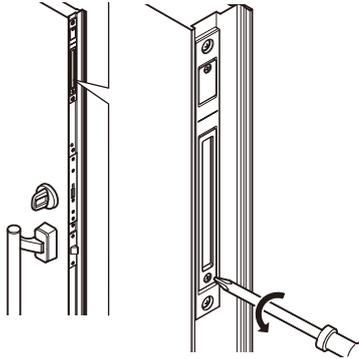
[化粧プレートの外し方]

図のように中央を押しながら横から外してください。別の外し方をするとプレートが破損するおそれがあります。



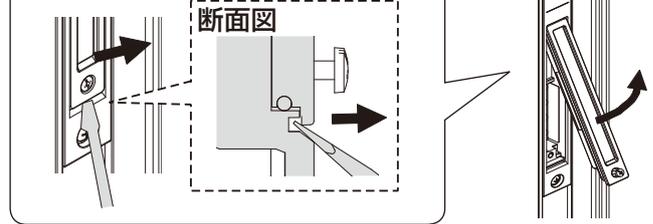
④電池を入れる

① 電池フタのねじを緩めます。

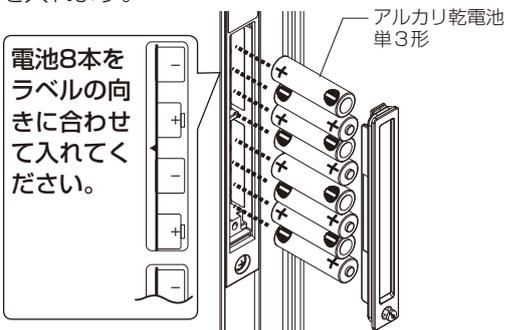


② 電池フタを外します。

フタが固い場合は、下図のようにマイナスイラストドライバー等で外してください。



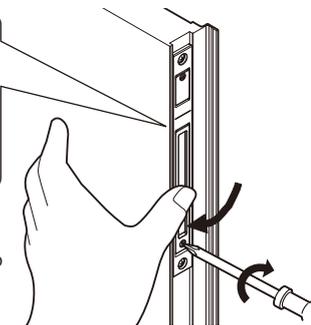
③ 電池を入れます。



④ 電池フタを閉めねじを締めます。

上部のツメをひっかけてから付けてください。

ねじはフタを押えながら締めてください



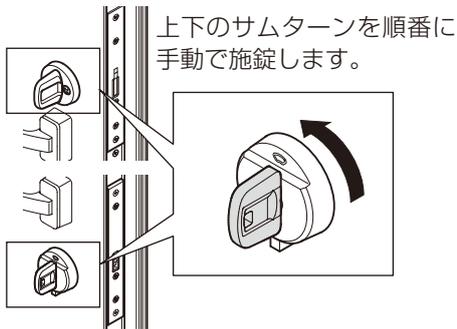
電池フタを閉めた後、ブザー音(ピ音)が鳴る場合は、以下の原因が考えられます。

| ブザー音 | お知らせ内容 |
|------------------|------------------------------|
| ピーピ×4 ●●●●×4 | 上サムターンのコネクタ接続が来ていません |
| ピーピピ×4 ●●●●×4 | 下サムターンのコネクタ接続が来ていません |
| ピーー *1 ———— | ・電池の入れ間違い ・電池フタが半開きになっている |

*1)ブザー音『ピー音』と共に電池切れ表示が点灯します。(詳しくは7/8をご確認ください)

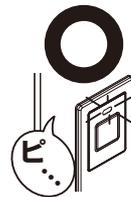
⑤電池を入れた後の動作確認

操作



状態

施錠した途端、「ピ音」が5回鳴り、LEDが橙色に点滅する場合



結果

正常にドアが開いている事とサムターンが手動で回された事を感じています。
※確認後、引渡しまでは電池を抜いて利用ください。

音が鳴らない場合



異常です。下記の点検手順①を参考に確認を行いメンテナンスしてください。

■点検手順①(上記手順で異常になった場合のみ点検を実施)

操作

リーダーのボタンを押す。(扉を開けた状態で実施してください)



状態

LEDが橙色に点滅し、ピ音が5回鳴る。

何にも起こらない。

結果

箱錠とのコネクタ接続ができていない。

電池が正しく入れられていません。

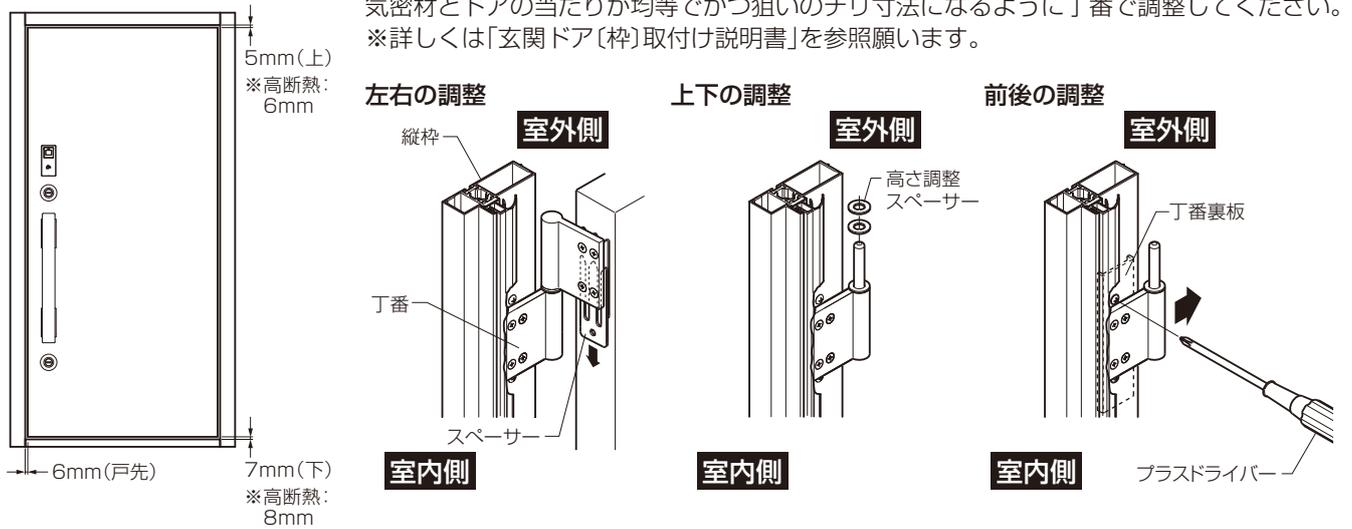
扉を開けた状態で実施

※本確認が終わりましたら工事期間中(工事用キー使用中)は、電池を抜いてご利用ください。自動施錠など、予期しない動作から、閉め出しにあうおそれがあります。

⑥ 枠とドア本体間のチリ寸法の調整

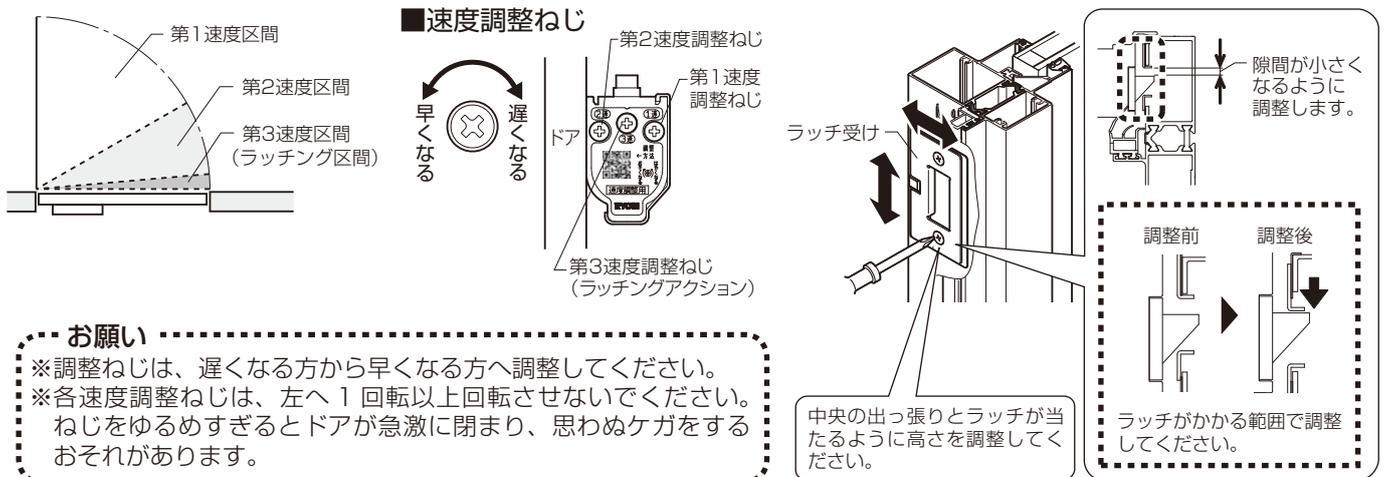
● 上下、戸先側のチリ寸法と気密材とドアの当たりが均等に当たるように確認、調整してください。

■ チリ寸法



⑦ ラッチの調整

● ラッチ調整の前にクローザの速度を適切に調整してドアが最後まで閉まるようにしてください。うまく閉まらない場合は、丁番もしくは子扉のフランス落としの調整を行ってください。そしてラッチがかからない場合、もしくはラッチがかかってもガタつきが大きい場合は、ラッチ受けの位置を調整してください。



⑧ ストライクの調整

● ラッチがかかった状態でドアを押し引きしながらサムターンを回し、カギがスムーズにかかるかを確認してください。カギがスムーズにかからない場合は、ストライクの位置を調整してください。

【確認方法】

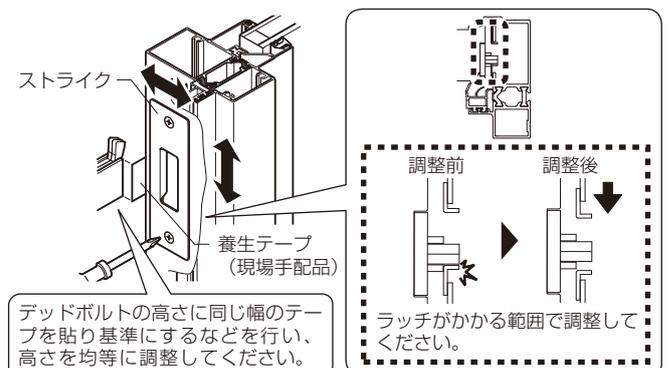
扉を押しながら
(把手は押さない)

把手を引きながら

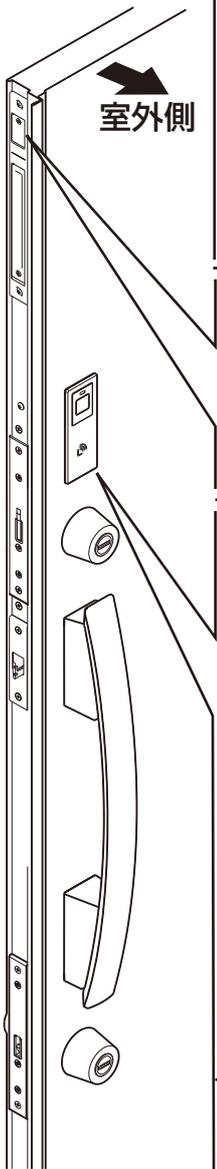
サムターン
を回す

サムターン
を回す

室内側

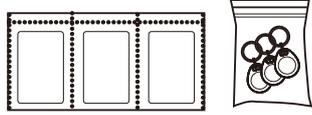


⑨カードキー・タグキー・リモコンを使った動作確認



① 同梱のカードキー3枚、タグキー3個、リモコンは未登録です。(以下、「タグキー」は省略)

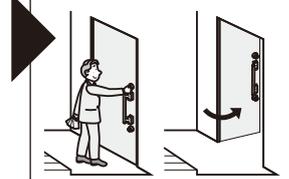
●**カードキー・タグキーの場合**
 作動確認を行う際はクリアケースに入れたまま登録を実施してください。



●**リモコンの場合**
 リモコンのボタンを押してランプが点灯する(電源がONになっている)事を確認します。
 ※OFFの場合は、リモコンの電源をONにしてください。出荷時は電源がOFFになっております。



解錠し、ドアを開けます。
 ※登録終了まで開けたままにしてください。

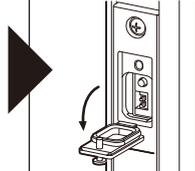


② フタのねじをゆるめます。

手回しドライバーをご利用ください。
 約10回まわします。



フタを外します。



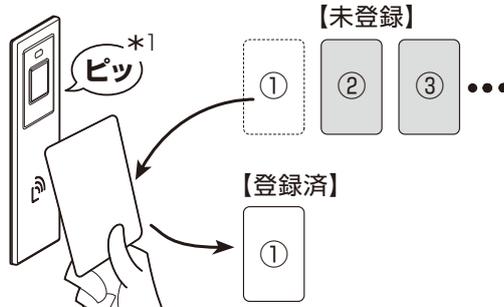
登録ボタンを1秒押し、離します。



③ カードキーとリモコンを登録します。(続けて登録可能です。)

●**カードキーの場合**

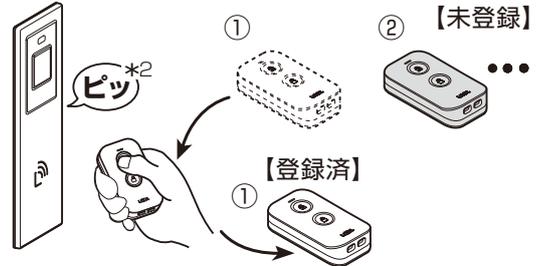
1枚ずつカードキーをマークにかざし登録します。



*1) 登録の都度、登録済み枚数分だけ「ピッ音」が鳴ります。(例: 1枚目「ピッ」、2枚目「ピッ、ピッ」)
 ※最大登録枚数は10枚です。
 ※S型ハンドルの場合、マークはハンドルに付いています。

●**リモコンの場合**

1個ずつリモコンのボタンを押し、登録します。



*2) 登録の都度、登録済み個数分だけ「ピッ音」が鳴ります。(例: 1個目「ピッ」、2個目「ピッ、ピッ」)
 ※最大登録個数はスマートフォンと合わせて10個です。
 ※1つのリモコンに最大10台のドアを登録できます。11台目のドアを登録すると、リモコンからは1台目のドアの登録情報が自動的に削除されます。

④ 約30秒待つと登録モードが終了し「ピー」音の後、登録枚数分「ピッ」音が鳴ります。*3



*3) 登録済みのスマートフォンを含めた、カードキーとリモコンの合計登録個数分鳴ります。

⑤ フタを元に戻します。

下部のツメをひっかけてからねじをしめてください。



⑥ 外に出てカードキー、リモコンを使って施解錠の確認を行ってください。

●**カードキーの場合**

タッチボタンを押し、カードキーを「マーク」にかざします。



●**リモコンの場合**

タッチボタン
 リモコンキー
 認証エリア



2つのカギが施解錠することを確認します。



※エラー音、エラー表示が点く場合は、[7/8]を参考に対処してください。

●**お願い**
 ※電気錠操作では上下2ロックになりますが工事用キーで操作できるのは上シリンダーのみになります。この為、締め出しの可能性があるので別の出入り口を確保するか室内に人が居る状態で確認を行ってください。
 ※工事中は連動施錠機能をONにしないでください。下の錠が施錠されると工事用キーで解錠できなくなります。

商品仕様

■ドア側(電池式)

| | |
|--------------|---------------------------------------|
| 入力電源仕様 | DC6V アルカリ乾電池 単3形 8本(4本の直列接続を2並列で接続) |
| 電池寿命 | 約 1年(常温20℃ 操作: 10回/日) |
| 出力周波数 | 2402~2480MHz / 13.56MHz |
| 電界強度 | 85dB μ V/m / 112dB μ V/m(参考値) |
| 無線局の種類 | 誘導式読み書き通信設備 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム |
| 使用環境温度範囲 | -10~50℃(電池を除く) |
| 使用環境湿度範囲 | 20~90%(相対湿度) |
| 保存環境温度範囲 | -20~60℃ |
| スマートフォン登録可能数 | 計10台(最大同時接続数6台) |
| リモコン登録可能数 | |
| カードキー登録可能数 | |

■カードキー

| | |
|----------|---------|
| 使用環境温度範囲 | -10~50℃ |
| 保存環境温度範囲 | -20~60℃ |

■タグキー

| | |
|----------|---------|
| 使用環境温度範囲 | -20~60℃ |
| 保存環境温度範囲 | -20~60℃ |

※本機器は総務省の技術基準に適合しており、総務大臣の許可なしに改造して使用することはできません。
改造すると法律により罰せられることがあります。